

# 現代雑誌における語種構成

山崎 誠・小沼 悦

国立国語研究所

yamazaki@kokken.go.jp, eonuma@kokken.go.jp

## 1 はじめに

国立国語研究所では、創立以来、現代語の書き言葉の統計的用語用字調査を行ってきたが、書き言葉の実態を探る上で重要な雑誌という媒体の調査については、1956年発行の雑誌を調査対象とした「現代雑誌九十種の用字用語調査」を最後に調査が行われていなかった。そのため、現代語の語彙・表記に関する基本的な統計情報は、長い間前述の雑誌九十種調査の結果を引用するということが続いてきた。

その欠落を補う意味で、1993年に現代雑誌の用字調査が企画された。その後、対象を用語調査にも拡大し、約40年間ぶりに本格的な雑誌の語彙調査が行われることになった。

## 2 調査の概要

### 2.1 調査対象

1994年発行の月刊誌70種を調査対象に選定した。雑誌の選定の方法は、以下のとおりである(文献[3])。

(1) 雑誌目録に掲載されていること(2) 定期的に刊行され、完結を予定していないこと(3) 書店で販売されること(4) 全国で販売されること(5) 雑誌が独立して<sup>1</sup>文字が主体であること(6) 記事が日本語を主体とすること(7) 本文の内容が専門的でなく、読者も専門的職業集団でないこと(8) 読者の対象が高校生以上であること(9) 3年以上発行されていること。

以上のような基準に加えて発行部数等の条件で調査対象を絞り込んだ。選定された雑誌は以下のとおりである。なお、ここでは、後述の分析のため、適宜分野に分けて示す。

「総合・文芸」(18誌)

世界, Esquire日本版, 月刊カドカワ, 短歌, 俳句, 現代, 宝石, 現代詩手帖, 歴史読本, 芸術新潮, 小説新潮, 月刊BIG tomorrow, Begin, 問題小説, 日経アントロポス, 別冊PHP, 文藝春秋, 太陽

「女性・ファッション」(16誌)

マダム, with, MORE, LEE, すてきな奥さん, マフィン, SAY, 家庭画報, 婦人公論, FIGARO japon, 25ans, 婦人画報, MEN'S CLUB, ESSE, Soen, ミセス

「趣味・娯楽」(26誌)

Airline, 音楽の友, CARトップ, GOLF digest, BE-PAL,

ADLIB, Swing Journal, Ski Journal, 天文ガイド, 歌劇, つり人, ラジコン技術, 月刊自家用車, CAR Graphic, 囲碁クラブ, 将棋世界, 優駿, Tennis classic, 月刊バスケットボール, Volleyball, 猫の手帖, Daytona, パチスロ必勝ガイド, カメラマン, モーターサイクリスト, 山と溪谷

「実用」(10誌)

Newton, 栄養と料理, My computer magazine, 日経マネー, 旅, ベビーエイジ, 新しい住まいの設計, プレジデント, 安心, 旅行読売

### 2.2 標本抽出の方法

雑誌全体の1/128の抽出比率<sup>2</sup>で標本を抜き出す。各標本は、1ページを縦横4ブロックに区切って16分割した際の1つとなる。抽出比率からすると8ページに1標本を抜き出す計算になる。抽出箇所の決定はプログラムで発生させた擬似乱数を利用して行った。

記事本文及び広告も調査対象に含めた。これは、広告と記事本文との違いを見るためである。

### 2.3 調査単位

最小単位の1回結合までを基本とする $\beta$ 単位を用いた(文献[1])。これは、文献[1]の調査単位と基本的に同じである。ただし、今回の調査では、外来語どうしの1回結合について、7モーラまでを1調査単位とするという制限を設けなかった。

## 3 語彙量(中間集計)

基礎的な言語統計情報を掲げる。ここで記述する数値はあくまでも中間集計であり、約2%程度の誤差を含んでいることに留意されたい。

延べ語数 1,018,222語

異なり語数 53,664語

延べ語数の内訳

一般 689,510語

助辞 328,712語

なお、上記の数値は、記号類を除いたものである。記号類は、語ではないので、調査対象には含めない。記号類の出現度数は、242,396(延べ)である。

## 4 語種について

この調査では、語種として、和語、漢語、外来語、混種語、外国語、人名、地名を立てた。外来語と外国語との判別は困難なものが多く、目安程度にとどまる。

<sup>1</sup> 新聞の縮刷版や放送テキスト教材のように、雑誌がそれ以外のものに依存するもの。

<sup>2</sup> 雑誌九十種調査の抽出比率は、1/227(標本全体)である。

人名及び地名は語種ではないが、後述の理由で便宜上、語種と同列に扱う。

#### 4.1 語種の比率

表1, 2は延べ語数, 異なり語数でみた語種の構成である。ここでは, 上記の「一般」から人名・地名を除いた値を示す。

表1 語種の構成 (延べ語数)

語種	語数	%	90種
和語	246,509	37.2	53.9
漢語	318,804	48.1	41.3
外来語	80,732	12.2	2.9
混種語	12,945	2.0	1.9
外国語	1,066	0.2	—
不明	3,276	0.5	—

表2 語種の構成 (異なり語数)

語種	語数	%	%90種
和語	11,308	24.1	36.7
漢語	14,357	30.6	47.5
外来語	16,779	35.8	9.8
混種語	2,650	5.6	6.0
外国語	356	0.8	—
不明	1,481	3.2	—

表1, 表2から人名・地名を除外した理由は, 文献[2]の雑誌九十種の調査結果と比較するためである。

表1, 2の「%90種」の欄に示したのが, 雑誌九十種調査における語種比率である。2つの比率の変化で顕著なのは, 延べでは和語の比率の減少と外来語の比率の増加, 異なりでは, 和語, 漢語の比率の減少と外来語の比率の増加である。

異なりにおける外来語の比率の増加については, 注意が必要である。2.3の調査単位で述べたように, 外来語において最小単位の1回結合の制限を設けていないため, 異なり語数が和語, 漢語に比べて多くなっていることが想定される。

また, 今回の調査では, 広告も調査対象に含んでいることが外来語増加の原因の可能性もあるため, 広告を除いたもので比較する必要がある。

#### 4.2 雑誌ごとの語種比率

以下の語種比率は, 延べ語数・一般(人名・地名を含む)についてのものである。

##### 4.2.1 和語の比率

和語の比率の平均は, 38.2%である。和語の比率が50%を超えるのは, 次の雑誌である。( )内に比率を示す。

小説新潮(61.2), 問題小説(61.1), 別冊PHP(60.8), 月刊カドカワ(59.3), 婦人公論(55.5), 短歌(53.3), 俳句(51.3), 現代詩手帖(50.6)

2.1の分類のうち, 「総合・文芸」雑誌がほとんどを

占める。「婦人公論」は, 女性・ファッション誌に分類したが, 総合誌的な性格も強く, ほぼ同質の雑誌群と言えよう。

和語の比率が25%未満の雑誌は次のとおり。

Tennis classic(24.8), 新しい住まいの設計(24.6), Swing Journal(24.5), モーターサイクリスト(24.3), Airline(24.1), CARトップ(21.8), Daytona(21.4), 音楽の友(21.1), 月刊バスケットボール(20.7), カメラマン(20.1), CAR Graphic(19.4), 天文ガイド(16.5), ラジコン技術(12.6)

これらは, 2.1の分類において, 「趣味・娯楽」に分類したものがほとんどを占める。

##### 4.2.2 漢語の比率

漢語の比率の平均は, 44.9%である。漢語の比率が60%を超えるのは, 次の雑誌である。( )内に比率を示す。

新しい住まいの設計(66.0), 天文ガイド(63.5), 日経マネー(60.5)

これらは, 「実用」「趣味・娯楽」に分類される雑誌である。漢語の比率が50%台の雑誌は18誌あるが, その内訳は, 「趣味・娯楽」12誌, 「実用」4誌, 「総合・文芸」2誌となっている。

一方, 漢語の比率が30%未満の雑誌は, 次のとおり。

問題小説(29.6), 小説新潮(28.9), 月刊カドカワ(27.4)

これらは, いずれも「総合・文芸」雑誌である。漢語の比率が30%台の雑誌は21誌あるが, その内訳は, 次のとおりである。「女性・ファッション」10誌, 「総合・文芸」6誌, 「趣味・娯楽」4誌, 「実用」1誌。

##### 4.2.3 外来語の比率

漢語の比率の平均は, 10.6%である。外来語の比率が20%を超えるのは, 次の雑誌である。( )内に比率を示す。

Swing Journal(24.1), ラジコン技術(23.9), Daytona(22.7), CAR Graphic(21.9), My computer magazine(21.7), カメラマン(21.0), ADLIB(20.2), 月刊自家用車(20.0)

「趣味・娯楽」「実用」に分類される雑誌であるが, 自動車やカメラなどの機械技術に関するものが多い。音楽雑誌が2誌あるのは, 外国曲の曲名が多く抽出されたためと思われる。

外来語の比率が5%未満の雑誌は以下のとおりである。

日経マネー(4.9), 婦人公論(4.6), 文藝春秋(4.2), 現代(4.1), 宝石(3.8), 囲碁クラブ(3.7), 問題小説(3.5), 別冊PHP(3.3), 小説新潮(3.2), 将棋世界(3.0), 世界(2.9), 現代詩手帖(2.8), 短歌(1.4), 俳句(1.2), 歴史読本(1.0)

これらはほとんどが「総合・文芸」に分類したものである。

### 4.3 雑誌の分類から見た語種比率

2.1で調査対象となった雑誌を仮に4分類したが、この分類と語種の比率との関係を見る。図1から、次のような傾向が分かる。

「総合・文芸」：和語の比率が他の雑誌の分類に比べて相対的に高く、漢語、外来語の比率が相対的に低い。

「女性・ファッション」：和語、外来語の比率が他の雑誌の分類に比べて相対的に高く、漢語に比率が相対的に低い。

「趣味・娯楽」：漢語、外来語の比率が他の雑誌の分類に比べて相対的に高く、和語の比率が相対的に低い。

「実用」：漢語の比率が他の雑誌の分類に比べて相対的に高く、和語、外来語の比率が相対的に低い。

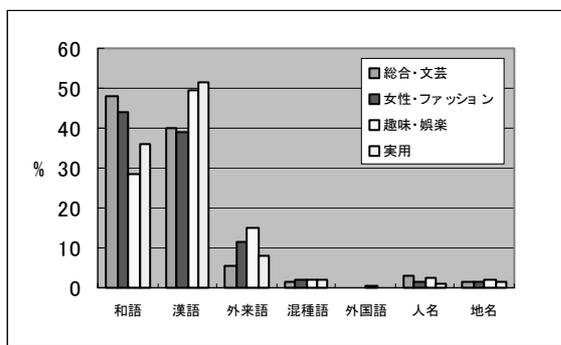


図1 雑誌の分類別の語種比率（延べ語数）

図2は、異なり語数で雑誌の分類ごとの語種構成を見たものである。グラフは、外来語の比率については同じであるが、漢語については、異なった形状を示している。すなわち、延べでは、「趣味・娯楽」「実用」が相対的に比率の高いグループ、「総合・文芸」「女性・ファッション」が比率の低いグループであったのに対し、異なりでは、「総合・文芸」「実用」が相対的に比率の高いグループ、「女性・ファッション」「趣味・娯楽」が比率の低いグループになっている。

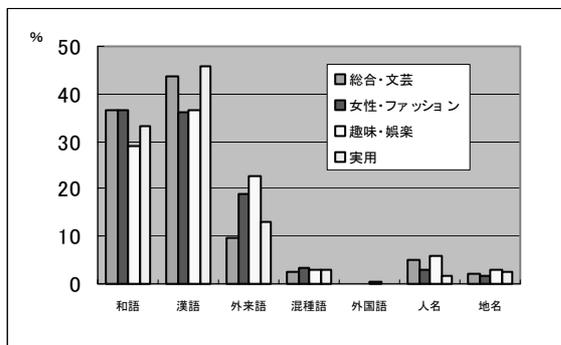


図2 雑誌の分類別の語種比率（異なり語数）

## 5 頻度と語種

### 5.1 上位語の語種

表3に、使用頻度順の語彙表（上位20位まで）を示

した（助辞も含む）。

表3 上位20語

順位	見出し	語種	品詞	度数
1	の	和語	助詞	53,610
2	に	和語	助詞	28,829
3	て	和語	助詞	26,135
4	は	和語	助詞	26,079
5	を	和語	助詞	25,823
6	だ	和語	助動詞	24,320
7	が	和語	助詞	22,151
8	た	和語	助動詞	20,204
9	と	和語	助詞	19,802
10	する	和語	動詞	18,259
11	で	和語	助詞	12,690
12	も	和語	助詞	11,681
13	一（イチ）	漢語	名詞	9,424
14	二（ニ）	漢語	名詞	8,909
15	居る	和語	動詞	7,911
16	三（サン）	漢語	名詞	7,114
17	五（ゴ）	漢語	名詞	7,077
18	ます	和語	助動詞	6,865
19	十（ジュウ）	漢語	名詞	6,514
20	四（シ）	漢語	名詞	5,691

使用頻度の高い語は、和語あるいは漢語であり、外来語で一番使用頻度の高いのは、「A」の123位(725回)である。

図3には、上位1000語の語種別内訳を示した。比率は、和語が43.5%、漢語が43.6%、外来語9.6%、混種語1.7%、外国語0.02%、人名0.01%、地名1.3%である。

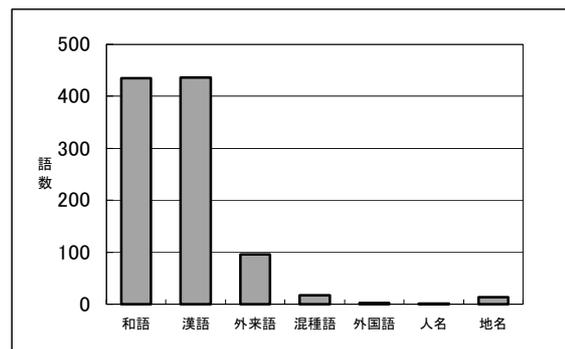


図3 上位1000語の語種別内訳

図4には、雑誌九十種の上位1000語の語種構成を示した。図3と図4を比べると、外来語が増加し、和語が減少していることが分かる。

<sup>3</sup> 「the」「of」の2語。

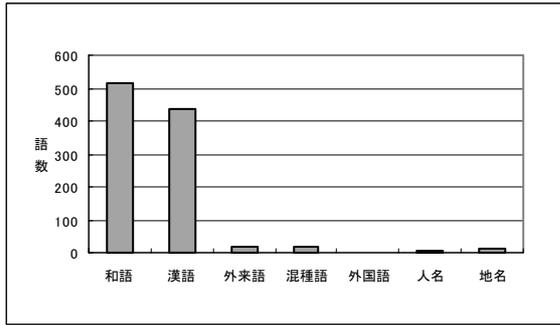


図4 上位1000語の語種別内訳 (雑誌九十種)

表4は、上位400語までに表れた外来語であるが、計量単位及び英字が上位を占めている。

表4 上位400語までに表れた外来語

順位	見出し	度数
123	A	725
143	B	634
163	ミリメートル	544
167	F	522
179	センチメートル	493
182	S	475
215	R	391
228	メートル	375
235	タイプ	365
238	C	360
244	セット	349
245	キロメートル	348
249	グラム	345
251	P	343
274	サイズ	312
321	Tel	272
331	エンジン	331
361	F (階)	243
370	M	237
380	V	232
380	ホテル	232
385	カラー	229
389	モデル	228
390	ファックス	227
399	ページ	221

## 5.2 頻度別の語種構成

図4は、上位から1000語ずつ5000位までを5つのグループに分け、それぞれの語種構成を示したものである。使用頻度が下がるにつれて、漢語の割合が下がり、外来語の割合が上がる傾向がある。和語はあまり変動がない。

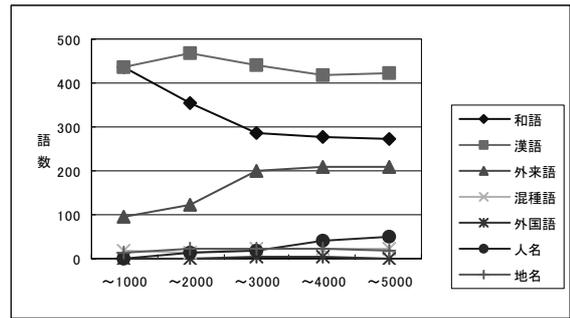


図4 上位から1000語ごとの語種

## 6 まとめ

本発表では、1994年の月刊誌を対象にした語彙調査の中間集計を用いて、主に語種の構成を記述するとともに、約40年前の同種の調査との比較を通じて、雑誌の語種構成の変化を観察した。この観察結果は、ただちに日本語の書き言葉の変化を表していると結論付けるわけにはいかない。雑誌という媒体の性格が変化した結果とも考えられるからである。この点は、今後、他の資料との比較によって、明らかにする必要があるだろう。

## 参考文献

- [1] 国立国語研究所(1962)『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊
- [2] 国立国語研究所(1962)『現代雑誌九十種の用語用字』第三分冊
- [3] 国立国語研究所(2002)『現代雑誌の漢字調査』
- [4] 国立国語研究所(1997)『現代雑誌九十種の用語用字全語彙・表記』